

高岡教区教務所 電話 0766-22-0887 FAX0766-21-5152

メール info@takaoka-hongwanji.jp

## ◆門徒推進員研修協議会開催

去る二月十五日（土）、西本願寺高岡会館において門徒推進員研修協議会が開催され、門徒推進員四〇名が参加し、「開かれたお寺、閉ざされたお寺とは」をテーマに、学びを深めた。

はじめに島高志さん（新湊組門徒推進員世話役）と島崎四郎さん（糸岡組門徒推進員世話役）より問題提起があり、「現在のお寺は葬式や法事以外では用事がない、と受け取られています」「仏教に興味がある人でも、門徒でなければ、知らない顔が法座に来た、と途端に探るような不審な目で見られ、とても近寄れないし入れない雰囲気です」「門徒推進員がお寺のお手伝いをしようとする」と既存の役職者と軋轢を生むこともあり、どうも『縄張り意識』のようなものがあった、それが新たに人が入ってくることへの妨げになっているのではないのでしょうか（島さん）「寺の組織は基本的に護持運営や経済面で支える組織ですが、門徒推進員はそういった組織と性質が異なります」

「総代や世話役のような関わり方は難しいですが、行事や準備作業があれば積極的に関わるなど顔をつないでいくことも大事ではないでしょうか」（島崎さん）と、それぞれ現在の寺院が所属の門徒以外が近寄りたく、役割も固定化された閉鎖的な場所になっているのではないかと提起された。

分散会では「現状は、閉ざされている寺と言



わざるをえない」「新たに来た人を歓迎するような雰囲気づくりが必要では」「わざわざ来てくれる思いのある人たちの大事にする姿勢に欠けていたかもしれない」「住職や坊守さんの影響も大きく、自分たちだけではどうしようもないところもある」などの意見が見られた。

ご講師の岡西法英さん（元教区相談員 五位組教願寺）は、助言の中で、連研が始まって四〇年が経つ中で、状況が大きく変化し、特に地域の横のつながりが消えていき、その中でかえって寺は限られた人間だけが集まる場所となり、それまでよりもかえって閉鎖的になったことを指摘され、その上で、寺と単独でつながる関係ではなく、寺と寺、人と人との網の目のようなつながりを築いていくことが重要とされ、課題は多いけれども門徒推進員の皆さまにはぜひその仲立ちを期待したいと激励された。

## ◆新湊組ビハラ公開講座が開催される

去る二月二十五日、佐賀の五十嵐雄道氏をお迎えして、新湊組のビハラ公開講座を開催しました。五十嵐氏は本願寺派住職であり、佐賀大学医学部など多数の医療関係学校の講師もされています。長らく「死の準備教育」、緩和ケア（ホスピス）に関していられています。

今回は、「ホスピスから見えてくる生死出づべき道」という講座でお話いただきました。

佐賀県立病院ホスピス棟開設以来今日まで、二十二年間かかっています。この間の多くの患者さんに共通していると思えることは、「何のために自分は生まれて、何をして自分は生きるのか。死んだら自分はどうなるのか」ということを悩み苦しみながら、命がけで問い考えておられるということでした。

「健康・長寿・お金・地位・名誉・友人・家族などに恵まれることは、幸せになるためにも大切なことです。だが、

これらは幸せになるための手段・方法なのです。実は、これらを使って何をするのかというのが本当の幸せの中身であり、私が何のために生まれてきたかという目的につながるものです。『この問い』を皆がそれぞれの生活の中で、問うていくことがとても大事なことです」

と指摘されました。そして、

死ぬのが怖いと泣いておられる方に、「私の人生の出来事はすべて、お浄土へ私を向かわしめんがための御縁だったと思えるようになってきた。阿弥陀様の方からは、お願いだから、気づいてくれ、分かってくれと願われ続けていた私であつた。阿弥陀様の御慈悲の中で、今生

かされて生きて、命を終えてお浄土に帰らせていただく私であつたと、気づかせてもらえた」と、仏さまのお慈悲の中に、その答えを見い出した、心の穏やかさをお伝えしたという話が印象的でした。

### ◇仏壮ボウリング大会開催

去る二月二十四日（日）、毎年恒例の高岡教区仏教壮年会連盟ボウリング大会が高岡スカイボウルにおいて開催され、各単位仏壮より総勢百二名が参加した。参加者は、仏教壮年会連盟会員はもちろん、年齢、性別も様々な方にご参加いただいた。

基本的に一チーム四名、合計二十六チームが二ゲームの合計点数で順位を争った。

結果については、一位妙蓮寺仏壮チーム、二位光慶寺仏壮チーム、三位下川崎仏壮チーム、ブービー賞が井口仏壮チームであった。昨年に引き続き、妙蓮寺仏壮からの出場チームが連覇を果たした。各個人においても浄土真宗に関係ある数字にちなんだ、十八位（十八願賞）、四十八位（阿弥陀様の誓願賞）等を設定し六名の方が受賞した。



来年も高岡教区仏教壮年会において、ボウリング大会を行う予定である。

### ★新型コロナウイルス感染症にかかる対応について（お願い）

今般、各ご寺院における法要行事、法務及び会議等について、規模及び場所等の状況や、地域の環境等を踏まえ、住職が関係者と相談し、実施の必要性を改めて十分に検討したうえで左記の通り対応ください。

（一）実施が必要なものについては、感染拡大防止のため、政府等による公的な通知等を踏まえた措置を十分講じる等、万全の対応のもと、実施ください。

（二）延期若しくは取り止め又は規模の縮小ができるものについては、それぞれ必要な措置を講じたうえで、対応ください。

### ★教区行事中止・延期のお知らせ

高岡教区の三月中の一部行事も中止・延期が決定しておりますので、皆さまに左記の通りご報告申し上げます。また、新たに中止・延期が決定した行事がありましたら随時ホームページ上でお知らせいたします。

#### 一、中止が決定した行事

- ①ブロック別総代研修会の全日程（全ブロックとも中止）
- ②三月十三日（金）の仏教婦人会連盟常任委員会
- ③三月十四日（土）の常例法座

#### 二、延期が決定した行事

- ①三月六日（金）の同朋運動推進者養成研修会

### ◆訂正のお知らせとお詫び

先月号にて、『高岡教区内有志による支援班が福島で餅つき』の記事内において、記事の標題及び本文に「高岡教区内の寺院・門信徒有志が福島県飯館村を訪問し」と記載がなされていましたが、正しくは「災害対策委員会によって派遣された僧侶・門信徒七名」でした。訂正してお詫び申し上げます。

## ◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー

「病そのものとは別の苦しみ」〜新型コロナウイルス問題に思う〜

昨今の報道でもご承知の通り、新型コロナウイルスの感染拡大によって国内でも多くのイベント・行事が中止となり、唐突に発表された全国一斉休校の要請は社会に大きな混乱をもたらしています。

一人で留守番をさせることができない低学年のお子さんを持つ保護者は仕事を休まざるを得ず、学童保育も受け入れられる児童の数には限りがあり、それらの対応も全て各自自治体任せです。

地方によって対応に差はありますが、児童たちもできるだけ家で待機するように言われ、友達と外で遊んでいるだけで「複数の児童が外で遊んでいる」と教育委員会に通報されるという事例も報告されています。まるで保護というより監視しているかのようです。

連日、開店前の薬局やドラッグストアにはマスクや消毒薬を求める人たちの行列ができ、デマと明言されているにもかかわらず、トイレットパーパーやティッシュパーパーが飛ぶように売れ、それらの物品は買い占めを防ぐために個数制限が設けられている店がほとんどです。

先日訪れた量販店で、「お一人様一箱まで」と但し書きされているティッシュパーパーを二箱持った女性が、母親らしき人に「一人一箱までやから返してこられ」と何度も言われているのですが、その女性は頑としてティッシュパーパーを離そうとしない、という光景を見ました。折しも花粉症の季節が始まることもあり、恐らくはご家族やご友人のために何としても、ということなのでしょうが、あの時のその女性の必死な眼差しが忘れられません。

また、現在新型コロナウイルスに関わる様々な差別の事例が報道されています。国内でも新型コロナウイルスの患者の対応にあたった医師が職場でいじめともいえる言動を受けたり、そのお子さんが通う幼稚園や学校から「登園・登校しないでほしい」という電話がかかってくるなどの事例が報告されています。

今回の新型コロナウイルスが恐ろしいのはその症状だけでなく、新型コロナウイルスに罹患、もしくは疑われただけでも、自分自身だけでなく、家族もが排除や忌避の対象とされる恐れがあるというところではないでしょうか。検査体

制の不備等に代表される政府の無策と場当たりの対応が社会不安と混乱を増大させ、相互不信と相互監視ともいうべき状況が形成されようとしています。

この間の政府の対応には首をかしげざるを得ませんが、もはやただの祭典ではなく国策といった感のある「東京オリンピックの成功」ということが新型コロナウイルスの対応にも大きく影響しているようにも思えてなりません。

今回の新型コロナウイルスに関する問題は、ハンセン病問題にも共通するところがあるのではないかと思います。

ハンセン病問題とは感染力が低い病気であることが判明していたにもかかわらず、国策として行われた強制隔離政策に関する諸問題です。生活水準が低い国に患者が多かったことから、患者の存在を「国辱」としてその存在を隠ぺいすることを目的に療養所（実態は収容所）に強制収容するため、「危険な伝染病である」と宣伝し、社会に差別と偏見を蔓延させることによって患者の居場所を無くし、徹底した強制収容を実現させました。その療養所で待っていたのは療養施設とは名ばかりの劣悪な環境と強制労働、そして強制不妊手術でした。その恐るべき政策の根拠となった法律は、ハンセン病に有効な治療薬が開発された戦後になってからも「らい予防法」と名を変えて継続され、一九九六年によりやく廃止されました。ハンセン病が治る病気になってからも、社会に根付いた差別や偏見は変わらず、退所しても家族に迷惑がかかる、などの理由で多くの方が療養所に残らざるを得ず、そのまま療養所で命を終えた後も遺骨の受け取りを拒否され、死んでもなお差別・排除され続けるという悲劇を生みました。

単純な比較はできませんが、今回の新型コロナウイルスも「病そのものとは別の苦しみ」がつきまとうということと、その病気に対する政府の意向によって多くの方が翻弄されるという構造は共通しているように思えます。

予防に気を遣うということはとても大切なことですが、不安や恐怖によって過剰に他者の行動を制限したり、排除したりということを私たちは繰り返してきた、ということをお忘れはいけません。「いったん立ち止まって、わが身のあり方と振る舞いを見つめなおす」ということが私たち仏教者の基本姿勢ではなかったでしょうか。

【高岡教区教務所・教区主幹 岡西好持】

◇これからの日程（3/10～4/26）◇

3月	教区・財団行事	教化団体・組行事	
10	組長会 教区常任委員会	少年連盟役員会	
12		寺院女性会役員会	
13			
16		ヤスクニ委員会 (映画上映会)	
18		特別法務員・雅楽研修会	
19		仏青教区のつどい	教区委員会
22			
23			財団理事会・評議員会
24			定期教区会
25			仏婦執行部会 長寿苑ビハーラ活動
26		寺院女性会委員会	
27		少年指導者研修会	
30		保育連盟研修会	
4月			
9	聖典セミナー（10回目）	仏婦常任委員会（新・旧）	
10	常例法座	全国講社大会（本山）	
14		布教団総会	
15	臨時教区会		
20		北同推総会	
21		仏教婦人会総会	
22		寺院女性会総会	
24		寺族青年会総会	
26			

☆お知らせ☆

『法輪せんべい』販売について

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかがでしょうか。お申し込み先は下記のとおり。

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。

一袋二枚入りで価格は次の通り

・特大箱（175袋）8,300円

・1組（10袋）500円

お申込み先は・・・高岡市東上関446 高岡教務所内  
(寺族青年会担当)

Tel.(050)5587-7708(代表)

Fax.(0766)21-5152

ラジオ放送～西本願寺の時間～

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・73.8kHz.

◎毎週土曜日（本山制作）午前6:15～6:25

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00～6:10

◎3/28（土）：若林 唯人氏

（本願寺派布教使・光照寺衆徒）

「お坊さんとお話してみよう」

□3/29（日）：未 定

（富山教区）

◎4/4（土）：中川 大城氏

（本願寺派布教使・中央仏教学院講師・奈良教区葛城北組無量寺衆徒）

「仏さまにまもられて」

◎4/11（土）：中川 大城氏

（本願寺派布教使・中央仏教学院講師・奈良教区葛城北組無量寺衆徒）

「私たちを支え続ける願い」

□4/14（日）：未 定

（高岡教区）

◎4/18（土）：中川 大城氏

（本願寺派布教使・中央仏教学院講師・奈良教区葛城北組無量寺衆徒）

「生き方を重ねて味わっていく」

◎4/25（土）：中川 大城氏

（本願寺派布教使・中央仏教学院講師・奈良教区葛城北組無量寺衆徒）

「全国に広がる法友の輪」

【西本願寺高岡会館4月の常例法座】

ご講師：藤島 秀 恵 師

（富山教区婦負西組勝福寺）

ご講題：『 未 定 』

午後1時20分頃からビデオ上映、2時からお正信偈六首引のお勤めです。ど